

広報広聴委員会行政視察報告書

以下のとおり視察の報告をいたします。

1 委員会名及び視察者名

■広報広聴委員会

委員長 : 中村 千佐江

副委員長: 音堅 良一

委員: 佐藤 紀子、森 りえ、岩元 弘樹、楠見 千穂子、綿屋 善明、成合 円美佳

■議会改革特別委員会

委員長 : 黒木 優一

副委員長: 坂元 唱子

委員: 中田 悟、広瀬 功三、羽田野 徳寿

2 視察先・テーマ及び日時

■視 察 先: 北海道鷹栖町議会(オンライン)

■日 時: 令和5年10月4日(水)10:00~11:30

■テ ー マ: 「すごい議会チラシ! ~議会だより校正作業の簡素化に向けて~」

3 視察の内容

■「市民が興味関心を持てる議会になるための広報広聴の取組について」

- ・議会傍聴の案内チラシについて
- ・一般質問の「通知表」について
- ・議会だよりについて
- ・一般質問の予告等、動画作成について
- ・日曜議会について

4 委員感想等(別紙添付)



鷹栖町議会の皆様

広報広聴委員会行政視察報告書

報告者 中村 千佐江

1 視察の感想

議会だより作成においては、現委員は特に、意欲的かつ積極的に新しいコンテンツを取り入れ、市民にも好評をいただいている一方、校正作業における広報広聴委員の負荷は大きく、なり手不足ともいえる状況がある。

加えて、昨年度に初めて導入したオンライン議会報告会や意見交換会が好評であったことから、広聴活動に注力するために、議会だよりへの負荷の削減が急がれるところである。

鷹栖町の議会チラシについては、ネットでも多くの記事と共にそのデザインを複数見ることができるし、7月の本市議会における研修会でも講師の土山先生がご案内くださっていたので、知っている気になっていたが、直接説明を受けながら見ると、そこに至る深い思いを知ることに繋がり、それまでとは異なって見えている。

鷹栖町議会では、校正作業を5回以上行うということで、本委員会では3回で終わらせようと頑張っているところで、負荷の削減とはならないと感じた。

12名の議員全員が、広報と広聴のいずれかに携わる仕組みということで、本市でできるだろうかと考える。また、議員自らがデザインのほぼ全てを担当しているということだが、デザインができる議員お一人が請け負っている状況であり、そのまま踏襲することはできないことが分かった。

視察直後発行の市の議会だよりでは、鷹栖町議会での棒大型家電店風決算チラシを真似た議会チラシに倣って決算審査ページを作成した。本委員会の成合委員による力作であるが、自分を含めて他の議員にできるかは疑問であるが、本市の現状として、他人任せなので勝手な意見もあるのではないかと思うので、今後、全議員に議会だより作成の過程で何かしらの関りを持たせることが必定であると考えている。

鷹栖町の取組には、そのまま踏襲できないことも多いが、できることは少しずつでも取り入れていきたいと思う。定例会開会後の一般質問のお知らせは、これまでも新聞に広告として掲載されているものであり、ひな形を工夫することで興味を持ってもらうようなデザインに変更することはすぐに実行できると思った。

一般質問の事前勉強会については、本市では人数が多いので、会派で行うことが適切なのかと考えた。期数の近い(若い)議員同士で意見や情報を共有しあう場を作っていくと良いのかと思う。

2 視察の成果及び本議会への反映等

- ① 4年の任期中、全議員が広報広聴委員会に何かしら関りを持つための仕組みづくり
- ② 一般質問前の新聞広告における、興味を引くようなひな形づくり
- ③ 議員間での意見交換、情報交換の場の醸成

広報広聴委員会 オンライン行政視察報告書

報告者 音堅 良一

1 視察の感想

鷹栖町議会の町議会の選挙では、3 期連続で無投票となったことで、広報広聴常任委員会が「開かれた議会」を目指し、議会の情報発信を自らの手で行うべきと、広報広聴活動を積極的に行うこととなった。

2013 年から名称を「みんなの議会」から「孔雀草」に変更する。2015 年に議会広報特別委員会から議会広報広聴常任委員会となる。2019 年から定例会案内チラシと日曜議会案内チラシを注目されるチラシとして作成する。2020 年に一般質問の通信簿の試行開始と傍聴ガイドブックを発行し、第 15 回マニフェスト大賞を受賞する。2021 年に第 41 回北海道町村議会広報コンクール特選と第 36 回全国町村議会広報コンクール 7 位を受賞する。2022 年に Twitter 運用を開始、令和 3 年度全国町村議会議長会表彰受賞する。

鷹栖町は人口約 6,500 人、3,100 戸の小さな町であり、12 名の議員の内 2 名が女性議員です。全員が広報広聴常任委員会の委員であることで、全議員一丸となり議会改革を行い、議会の傍聴者を増やす取り組みや、本会議開会日の 10 日前が通告書の締め切りであるが、同開会日の 2 週間前に、一般質問の事前勉強会をして、中身のある質問になる様に協議している。

2 視察の成果、本議会に反映するために参考になった事項

鷹栖町は議員 12 名の小さな議会ですので、広報広聴常任委員会に全員が所属し、議会改革を積極的に行っていることが、都城市議会と大きな違いであることが分かりました。本市の広報広聴委員会も全議員所属とすれば新しい取り組みができるのではないかと思います。

また、通告書の締め切りを早めることや一般質問の事前勉強会は本市議会にとって大いに反映できると思います。



ZOOM を使った、オンラインによる行政視察

1 視察の感想

鷹栖町は、北海道のほぼ中央、上川支庁管内の中心部に位置し、和寒町、北海道第二の都市旭川市に隣接している。トマトジュース「オオカミの桃」で知られ、豊かな自然に囲まれ、道内屈指の稲作、付加価値の高いきゅうりの生産等、良質な農産物の供給地帯である。現在は、積極的な企業誘致により、農・商・工一体となった地域複合産業の形成を目指している。

鷹栖町議会では、議員選挙が3回連続で無投票となったことをきっかけに、議会に対する住民の関心を高めるため、週刊誌や少年雑誌、家電量販店のチラシをイメージした広報チラシを作成し、定例会の案内等を実施している。

このユニークな案内チラシは、町内約1800世帯に事前配布しているほか、町のホームページでも紹介され、町内外やSNSでも話題になっている。

町民や役場職員等の反応としては賛否両論あるが、議会に対し、関心を持ってもらうため、様々なご意見を受けとめているとのことである。

ほかにも町政への参加を促すため、「議会傍聴ハンドブック」を配布したり、議員全員の仕事ぶりを評価する「一般質問の通信簿」を導入したりしている。これらの取り組みのPR効果により、傍聴者は着実に増えているようである。また、良い質問をしようという議員の意識にもつながり、議員の質向上や議会活性化にもなっているとのことであった。

日曜議会の導入については、平日の議会に傍聴できない青年層・会社勤めの方にも来ていただける機会をつくることを目的に、平成28年度から取り組まれている。このことも議会への関心を高める取り組みといえる。

2 視察の成果及び本議会への反映等

今回の視察は、初めての試みとなる鷹栖町へのオンライン視察であった。鷹栖町の議会案内チラシがとてもユニークで、どのような経緯からこのようなチラシ作成に至ったのかを直接お聞きすることができ、大変勉強になった。議会の規模が違っているとはいえ、全議員が広報広聴委員として活動しているとのこと、議員全員が広報広聴に関わっているのは、とても良い取り組みだと思った。

本市議会においても、より市民に開かれた議会を目指し、議会だよりをより分かりやすく、関心を持ってもらうために工夫しているが、鷹栖町の取り組みを研修させていただき、本市議会としてもさらなる取り組みの工夫が必要だと感じた。

広報広聴委員会オンライン行政視察報告書

委員名 森 りえ

1 オンライン視察の感想

鷹栖町は、人口 6,500人、世帯数3,100世帯であるが、公民館の加入率が9割と高く、議会だよりや傍聴案内が届きやすい町だということが分かった。

3期連続で町議選が無投票になり、町民に議会に関心を持ってほしいということも、手作りの週刊誌の広告風だったり、表紙風だったり、家電量販店のチラシ風だったりと様々な工夫がされている。

ただこれに携わっている議員がデザイナーなのでできるのかと思った。これらの傍聴案内は賛否両論であるが、町民が議会に関心を持つのにいい工夫だと感じた。

また、年1回日曜日に町議会の本会議が行われているので、平日には議会傍聴に来れない方も議会傍聴ができるのはいいと思う。

広報広聴委員会にはすべての議員が関わっているが、パソコンが不得意な議員も入りため、知識や技術力の向上が求められているとのことだった。

都城市議会の広報広聴委員会ではWord, Excelなどを使っているが、鷹栖町では編集ソフトを活用しており、印刷業者には、製版と印刷業務だけ任せているとのこと、原稿はほぼ仕上がった状態になっているのだと思う。Wordでもある程度仕上げられるが、専門のソフトがあると いいのかもしれない(有料だが)

2 視察の成果及び本議会への反映等

本市では広報広聴委員会に一部の議員しかかかわっていないため、できるだけ多くの議員にかかわってもらいたいと思った。

誰もが分かる議会だよりとして、できるだけわかりやすい言葉を使うことはもちろんだが、フォントをユニバーサルデザインのものを使うなど、見やすい工夫が必要だと思った。

一般質問の勉強会を有志で行うことにより、質問力の向上が図られている。勉強会を有志で行うためには、一般質問のテーマを早く決めること、必要な調査をしっかりと行うことなど、取組の時期から変えていかなければならないが、執行部に質問の趣旨を理解してもらう必要もある。

広聴活動の方法への工夫がいる。

広報広聴委員会 オンライン行政視察報告書

委員名 岩元 弘樹

1 視察の感想

広報広聴委員会として初めてのオンライン視察を実施した。今回の鷹栖町議会の取組は全国で大変注目されており、斬新な広報活動が特に面白かった。

3期連続の無投票であったことから、特に広報に力を入れているということで定例会案内チラシ、一般質問の通信簿、日曜議会の開催など、多岐に渡っていた。

2 視察の成果及び本議会への反映等

鷹栖町の広報広聴委員会は、議長を除く全議員で構成しており、広報、広聴の担当を分けるなど、議会として取り組んでいることは、本市議会でも、全議員でなくても現在の8名よりもっと多くの議員で構成することは必要であると感じた。

広報チラシの町民や役場職員からの反応は賛否あるようだが、まずは議会に関心をもってもらうための手段として、本市議会でもできることは取り組んでいきたいと思う。



広報広聴委員会 オンライン行政視察報告書

委員名 楠見 千穂子

1 視察の感想

参考にできるところはたくさんあった。何もかも一番ではなく、同じことを取り入れ実施することもいいと思う。

鷹栖町議会の議員全員が同じ方向を向き、議会改革を行いたいとの思いが議会のレベル向上に繋がっていると思う。

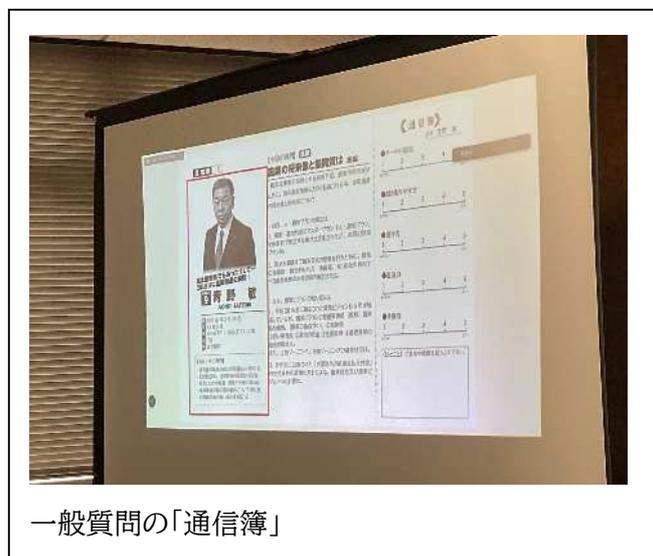
7月5日6日に全国地方議会サミットに出席した時にも、鷹栖町の事例発表があり全国的に注目されている自治体だと思った。

2 視察の成果及び本議会への反映等

定例会前のチラシ配布と一般質問の通信簿はすぐにでも実施して、市民に議会への興味を持ってもらうにはとてもいいと思います。

また、広報広聴常任委員会へ議員全員が参加して、グループ別に活動できれば現在の広報広聴委員会の負担軽減ができると思われる。

一般質問「市政を問う」の概要360文字が、大項目のみになりページ数が2ページ減ったことも、他の特集をやるため負担になってきているので、2ページ分を定例会前の一般質問のチラシを作成し配布するのもよいと思われる。



一般質問の「通信簿」

広報広聴委員会 オンライン行政視察報告書

委員名 綿屋 善明

1 視察の感想

10月4日(水)、議会改革特別委員会と共にオンラインによる行政視察を行った。コロナ禍の功名か、市税と移動の時間を使わずに視察ができるというのは、大変便利と感じた。

今回の受け入れ先は、北海道鷹栖町。「北海道鷹栖町統計資料令和4年版」(令和5年1月発行)によれば、人口は6,567人(令和2年度)、面積は139,42 knl(令和4年1月1日現在)。人口や高齢化率を比べると、旧山田町と近似しているが、高齢化率公民館加入世帯では、加入率が9割と本市の状況とは大きく異なっている。今回の視察は、議会広報紙についての聞き取りを目的としていた。現状、市議会の広報誌は自治公民館加入者宅に全戸配布される本市の状況と重ね合わせると、鷹栖町では、ほぼすべての市民が市議会の広報誌を手取る可能性がある。そう思うと、視察冒頭から、目の覚める思いであった。

また、鷹栖町側の広報広聴委員として主に対応して下さった川原允町議が36歳、議会チラシのデザインを手掛ける片山兵衛町議が45歳と、比較的若手の議員が中心となって活動されていることに、私自身、大変刺激となった。

2 視察の成果及び本議会への反映等

① 議会の紹介動画について

2期連続で無投票による選挙で、町議会として大きな危機感を感じられたという背景があるにせよ、これまで思いもつかなかったチラシ風の議会開催の案内発行を決裁された鷹栖町議会議長の懐の深さにまず感銘を受けました。その上で、本市においても、市民の関心を引く議会案内、議会広報のあり方を、さらに研究していく必要があると考えます。

② 議会の通信簿について

本市議会においても導入すべきと考えます。通信簿を公開するかどうかは、議論の余地がありますが、事前にどのような質問をするのか傍聴者により詳しく知らせることができる、また、質問が伝わったのか、改善の余地がなかったのかについて市民から評価や講評を得ることで、議員力向上に大いに役立つと考えます。鷹栖町議会では、「通信簿を辞退」する議員もいます。そうした自由度を持たせながらも、市民からの意見について誹謗中傷は厳禁、頂いたご意見には返信するというカタチで導入すべきと考えます。

③ 広報広聴委員会を全議員制にする

鷹栖町議会では、全議員が広報広聴委員として活動されているとのことでした。その上で、議会報を担うA班とそれ以外の広報広聴活動を担うB班に分かれている、とのこと。これに倣って本市でも、広報活動と広聴活動を分けて全議員が同委員の任につくことで、市民に対し、より質の高い広報・広聴を提供できるのではないかと考えます。

広報広聴委員会 オンライン行政視察報告書

報告者 成合円美佳

1 視察の感想

議会改革委員会で早稲田大学マニフェスト研究所主催の全国地方議会サミット2023に参加した時に、鷹栖町議会の存在を知ったが、ぜひともその他の議員にも知ってもらいたいと広報広聴委員会で視察先として話題にあげたところ、オンラインではあるが視察することが叶った。オンラインではあったが、鷹栖町議会は、目を引く週刊誌風な議会チラシが全国から注目が集まった経験もあることから、外部向けの取組内容を説明する動画も作られており、北海道に足を運ばずとも、十分に取組みの背景や課題などを理解することができた。一般質問内容を事前に市民に知らせる議会チラシは、ほぼ1議員の力で作っていることは知っていたが、議会だよりは12名全員で作っているというのには大変驚いた。ま

た、町内会、本市で言うと自治公民館への加入率が9割を超えており、議会だよりやお知らせチラシが、ほぼ全市民に届く仕組みとなっていることが分かり、この点が本市では加入率が5割ほどなので、同じことをしている時点で、市民に届く議会だよりにはなっていないと感じた。

2 視察の成果及び本議会への反映等

私自身はこの視察の前から鷹栖町議会の議会チラシを知っていたので、9月定例会のことをお知らせする議会だよりの決算ページ分の編集担当に立候補し、鷹栖町議会の議会チラシを参考にガラッと変えて作ることができた。今回の視察が何より生きたのは、その後に行われた広報広聴委員会での議会だよりの編集会議であると思う。以前なら、文の始めは一文字下げるとか、文字の大きさがよく見ると違うとか、そういう細かい部分ばかりに目を凝らし、全体のデザイン性について委員間で討議することはほとんどなかった。まるで校閲の仕事だと感じ、楽しくなく、どんなに素晴らしい内容でも、見てもらえなかったら意味ないので、悔しい思いをする場面がこれまでは多くあった。それが、鷹栖町議会の存在を知ったおかげで、もっとはじめていいのだという感覚が委員たちのなかで芽生えたのか、編集会議での協議内容が、作った委員自身の満足感より、市民に見てもらえるかということに、重点が置かれるようになったと強く感じた。新聞に記載される一般質問のお知らせ広告も、このままでは注目してもらえないという協議が始まったし、議会事務局も新聞社に例を作ってもらおうよう動いてくれたりして、少しずつ前に進んでいると感じる。これに加え、議会傍聴時に市民からの意見が徴収できる用紙を置くようにし、それを議会だよりに掲載するようにして、議員と市民が一体となって紙面を作り上げるレベルまで発展できたら、もっと手に取ってもらえる市議会だよりになると思っている。また、広報広聴委員の負担が重いので、紙面を減らそうという動きがあるが、広報広聴委員会が8名だからそう感じるのであり、鷹栖町議会のように全員が広報広聴委員会になって取り組むなど、編集に携わる人数を増やす方向がよいと私は考える。ま

た、終わったことを書くから、トピック内容に困るのであって、議会だよりのページ数を大幅に減らした分、事前の一般質問告知チラシを作成することに注力できればとも考えている。議会全体で取り組むのには、賛成する人が多くなくては実行できないが、会派や議員個人としては、一般質問の事前告知はSNSやYouTube動画でも作成して発信している。それを見て、傍聴に来たという人もいるため、効果はあると考えている。議会全体でもできるようになればいいと考えるが、これがまた、広報広聴委員会に選出された委員だけの負担になるような仕組みには絶対してはならないと思った。



記念撮影